

# JAPAN NOW

## 観光情報協会

- NON Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第52号

発行日2007年11月27日

### Contents

札幌で第3回フォーラム	1
北海道フォーラムの内容	2
三育シンポ、松尾氏に勲章	3
霞が関情報（本保審議官）	4
観光人国記（萩市長、萩本陣）	5
協会の歩み	6
協会の歩み、台湾に北海道店	7
世界遺産物語、[NEW SPOT]	8
観光立国へ提言、COLUMN	9
モロッコ料理、赤いカレー	10
寺前理事が観光学博士に	11
お天気の話（冬が遅くなる）	12



明治維新の故郷といわれる萩市でも、吉田松陰は別格的存在。したがって、この「松下村塾」も数ある古跡を代表することとなる。今年は、松陰先生生誕150年とあって、12月16日まで特別展が開かれている。ところで「長州ファイブ」って知っていますか？松下村塾で学び日本の初代総理大臣となった伊藤博文ら5人が密航して、イギリスで学び近代化の礎を築いた。日本ではそれほど知られた話ではないが、イギリスに記録が残っている。

### 4月に観光立国フォーラム in 宮崎 東京で10支部長参加の観光サミット

JAPAN NOW観光情報協会（松尾道彦理事長）は、平成20年の活動計画について、4月には宮崎市で初めてJN協会九州支部が主催する「観光立国フォーラム in 宮崎」を開き、九州圏の広域観光や街づくりについて話しあうことを決めた。

宮崎の観光や食文化に力を入れている東国原宮崎県知事のおひざ元で開催することで、新しい展望を開く狙いである。

また、5月に開くJN協会の定時会員総会の際、東京のプレスセンターで全国10支部長参加の「JN協会観光サミット」を行う準備を進めている。

### 盛大に「食・心・動」三育の女性シンポ 東京で郷土発展振興会、JN協会と協力

郷土発展振興会（本部・金沢、加藤愛恵会長）はJN協会と協力して11月23日、東京・神田の「ベルサール神田」で「食・心・動」三育の分野で活躍する女性によるシンポジウムを開き、約200人が参加した。これに先立ち「日本女性ネットワーク協議会」（JWN）が設立され、女性問題で活躍している2氏に「ウーマン大賞」が、女性を支援している男性に5氏・団体に「ナイト大賞」が授与された。

シンポジウムの内容は、3面に収録。

### 渡辺氏「企業誘致と資源活用」を訴える 第3回「観光立国フォーラム in 札幌」

JN協会と北海道観光連盟は11月6日、札幌市で第3回「21世紀は大北海道圏の時代」（観光立国フォーラム in 札幌）を開き、札幌副市長、江口北海道運輸局長らが来賓として出席し、坂本JN協会北海道支部長（JR北海道相談役）、我孫子北海道観光連盟会長の主催者挨拶に続き来賓が挨拶した。札幌副市長ら来賓は北海道や札幌の観光振興への取り組みについて表明。（写真はフォーラムの様相）

このあとフォーラムに移り、渡辺前日本貿易振興機構理事長が北海道経済の活性化、中尾国土交通省港湾局長が北海道のみならず観光、須田JR東海相談役が北海道観光の振興策で所見を述べ、提言を行った。渡辺氏は「北海道経済の活性化には外資を含めた企業誘致と観光や農水産業など道内資源の活用を図るべきだ」と提案した。北海道の行政、民間企業関係者など約300人が参加し、講師を囲んだ懇親会も開かれ盛況のうちに散会した。（2面に内容）



## 北海道経済の活性化への挑戦を

渡辺修・前ジェットロ理事長

### 農・畜・水産品の海外輸出も



北海道経済の活性化には、二つの方策がある。一つは外資を含めた企業誘致を図ることであり、軌道に乗れば道内の雇用増をもたらす、税収も増加して道内が潤うことになる。もう一つは北海道にしかない観光資源と強い競争力のある農業、畜産、水産部門などの道内資源を経済発展に活用することである。もちろん安全な食品の提供を第一に考えなければならない。国内への供給だけでなく、農水産品は海外に輸出することが重要である。最近の調査では太平洋側の港湾よりも日本海側の港湾からの物流が増えており、北海道の港湾を活用することが肝心だ。

北海道経済の活性化には、二つの方策がある。一つは外資を含めた企業誘致を図ることであり、軌道に乗れば道内の雇用増をもたらす、税収も増加して道内が潤うことになる。もう一つは北海道にしかない観光資源と強い競争力のある農業、畜産、水産部門などの道内資源を経済発展に活用することである。もちろん安全な食品の提供を第一に考えなければならない。国内への供給だけでなく、農水産品は海外に輸出することが重要である。最近の調査では太平洋側の港湾よりも日本海側の港湾からの物流が増えており、北海道の港湾を活用することが肝心だ。

### 自動車・IT・バイオ産業の誘致を

今回の景気回復から北海道などは取り残されている傾向にあるが、こうした地域経済力の格差解消への挑戦が必要だ。アセアンと日本、中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランドを加えた東アジア地域の経済統合が検討されているが、人口の減少が進む日本は、こうした東アジア経済圏と一体になった経済活性化が課題となっている。

北海道は東アジア圏からの人の交流増加を受けて海外観光客の受け入れに積極的に取り組んでおり、成果が上がっている。もちろん、観光客の誘致だけでなく東アジアからの対日投資の拡大を進めるべきである。国内の産業誘致では裾野の広い自動車関連産業やIT、バイオ、新エネルギーなどの誘致、育成が重要である。

### 「みなと」を活用した観光交流の促進

中尾成邦・国土交通省港湾局長

日本の「みなと」と「まち」は各地に生まれた「みなと」を核として商人、船乗りなどの人々が集まって「まち」が形成されてきた。

そして「港と街」として固有の産業・生活・文化を持つ数多くの都市がつくられた。古くから海外文化の影響を受けて港湾都市として発展したのが、函館、新潟、横浜、神戸、長崎である。

このうち函館港は優れた地形により「網知らずの港」、「巴港（ともえこう）」といわれた天然の良港であり、南北海道の物流、産業、経済の拠点として本州との窓口として発展したわけだ。



### 北海道は団塊世代にも人気

北海道の観光入込客数は年間4909万人のうち外国人観光客は59万人となり、平成14年度以降、総数では低迷しているものの、東アジアや豪州などからの観光客は増加している。団塊世代は平成19年度以降に60歳代を迎える人が増えるが、退職後の記念旅行は50%超が予定しており特にヨーロッパと北海道が人気だ。今後の北海道の「みなと」を活用した観光交流は「みなと」と「みなと」の連携「みなと」と「陸」の連携 本州やロシアなどとの連携が期待される。

### 北海道を日本のモデル総合観光圏に

須田寛・JR東海相談役

北海道の洞爺湖で来年7月、先進国首脳会議が開かれることが決まり、世界的に注目されているが、これを機に点の観光から面の観光への転換や広域観光、国際観光の展開のために北海道を日本の「モデル総合観光圏」として形成すべきである。ここでは体験、学習など観光ニーズの多様化への対応、長期滞在型観光の普及、観光資源の再編成を進めることになる。今年6月には観光立国推進基本計画が閣議決定されており、国、地方自治体と市民が協力してこの計画の推進を図るべきだ。



### 観光振興の道民運動を

北海道で「新しい観光」を展開するためには、多様な観光資源を生かして新しい観光による観光資源の再編成を行うことである。例えば産業観光、都市観光、農漁業観光などテーマ別観光を進め、ヘルスツーリズム、グリーンツーリズムなどのニューツーリズムに取り組むことが必要である。また、雪、景観など地理的な特性を生かした観光の拡充、道南、道北、道央、道東などの地域、都市別プログラムの展開もモデル総合観光圏の有力なテーマとなるだろう。

それではこのモデル総合観光圏の形成への課題は何かということだが、総合観光ルートの設定、長期滞在型、永住型観光プログラムの策定や受け入れ態勢の強化である。宿泊設備、交通インフラ、ホスピタリティの充実を指摘したい。北海道観光振興のための道民運動を展開してはどうか。

### ミシュランが東京の150店に 付け

あのミシュランが、初めて東京のレストランを調査、格付けし、150店に「」をつけた。本場のパリでも64店だけ、ニューヨークで39店だ。中でも「」8店のうち日本料理が5店。世界的な和食ブームを反映したのか、世界の料理大集合の東京の味が評価されたのか。

## 女性の力で住みよい社会へ 郷土発展振興会とJN協会共催でシンポ

11月23日正午から始まったシンポジウムは、第一部が「郷土発展振興会」の主催、続く第二部がJN協会の担当。この会は、「日本女性ネットワーク協議会」の発足を記念して行われた。

### 第一部「食・心・動」の三育による地域振興 ・「インターネットによる地域ネットワーク」

藤岡俊雄氏

携帯電話を皆が持つ時代。ケイタイは電話機能だけでなく、メール、テレビ、GPSを使った場所探しや目的のモノを見つける、ケイタイ・ショッピングと非常に幅広い働きができるIT機器だ。私はIT技術を生かす仕事をしているが、こうした技術を使って女性の活躍の舞台を広げる手伝いしたい。

#### ・「解毒と電解・日本を救う水」 三浦晃氏

「人は酸素がなければ生きられない」というが、酸素は毒でもある。全ての病気は、酸素が原因だともいえる。「プロトン水」は水素であって、化合して水になり酸素の毒を消す機能がある。飲み水だけでなく、シャンプー、洗剤、化粧品など「プロトン」を使った日用品を開発する。女性の強い味方となる。

#### ・『食・心・動』三育によるまちおこし」

加藤 愛恵氏

姿勢が良くないと健康な生活は送れない。私は17歳のころテニスのし過ぎで動けなくなった。それからヨガ、太極拳などを普及させ、人の体を守る活動を続けてきた。そして、食べ物の良し悪し、心の持ち方、体の動かし方で健康な母親・子供を育てる運動を始めている。「日本女性ネットワーク協議会」(JWN)を立ち上げたのも、そこに狙いがある。

### 第二部 JWN設立記念講演

#### ・サッカーを通して地域振興を考える

奥寺 康彦氏

横浜FCの会長、「オクデラ・スポーツ・アカデミー」の校長として、サッカーやスポーツを通して健全な子供を育てる運動を地域の人たちと一緒に続けている。ドイツでのサッカー生活で、クラブ組織の良さを知った。「学校は勉強、スポーツは学校の外のクラブで」が理想。

#### ・「食・心・動」は、まさに観光の真髄

須田 寛氏

第一部「食・心・動」の三育で地域振興という考え方は素晴らしい。まさに観光の動機は、地域の食を求めるところにあるし、もてなす心の交流を生む、そして各地を動く。まさに「観光そのもの」。このあと、産業観光、街道観光など新しい観光の在り方について持論を述べた。なかでも、行く人、受ける地元の心の交流を強調した。(右下欄へ)

## 運輸省時代の業績が高く評価される 松尾理事長が「瑞宝重光章」を受賞

JN協会の松尾道彦理事長(写真)が「瑞宝重光章」に選ばれ、11月6日、皇居で行われた伝達式で天皇陛下から名誉ある瑞宝重光章を受賞しました。松尾氏は昭和35年運輸省(現国土交通省)に入り、大阪陸運局自動車部長、福岡と中部運輸局長などを経て本省官房長、航空局長、事務次官に就任。退官後は日本エアシステム副社長、日本鉄道建設公団総裁となり、現在は日本海事センター会長を務めているが、今回の受賞はとくに運輸省時代の業績が高く評価されました。



観光にも詳しい松尾氏はNPO法人・JN協会理事長に就任し、ボランティア活動にも力を入れ全国10ヵ所に支部を設けて日本の観光立国のための市民運動を行っています。松尾氏は教育に熱心な岡山県総社市の生まれで、元運輸事務次官の服部経治氏や通産省(現経済産業省)の元事務次官を務めた小長啓一氏は岡山県の出身です。瀬戸内海の向こう側の四国では国土交通省の峰久幸義事務次官が香川県丸亀市、元通産事務次官の渡辺修氏は愛媛県新居浜市の生まれということで、中央官庁の行政官として成功しています。

私はかつてマスコミ関係者として運輸省を担当したが、松尾氏の対応はいつも冷静で公平でした。人と接するときは相手の話しを良く聞いて親切に対応することであり、人と人の触れ合いを大事にする異色異能の方です。

運輸省時代を振り返って「航空部門での担当が11年と長く、過激派の反対で難航した昭和53年5月の成田空港の開港や第6次空港整備5ヶ年計画の策定などを手がけました。鉄道建設公団のころは東北新幹線の盛岡・八戸間の開業やつくばエクスプレスの建設が主な仕事でした」と述べています。松尾氏の今後の活躍を期待しております。

(JN協会事務局長 白澤照雄)

#### 概説

瑞宝章(ずいほうしょう)は、公務などに長年にわたって従事し、成績を挙げた者に与えられる勲章である。図案は宇志麻治命から神武天皇へ奉納されたという瑞宝で、その鏡珠の形は伊勢の神宮の神宝に模したといわれている。



#### ・リニアこそ推進すべき21世紀の交通

白澤 照雄氏

JR東海が、まず2025年に東京 名古屋間に走らせるというリニア新幹線こそ、省エネにつながり、環境悪化を防ぐ最高の「空飛ぶ鉄道」だ。時速500キロで走る技術は、世界に冠たるもので、米国、中国、ブラジルへの進出も期待できる。

## 東京 電が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

### 観光立国を支える人たち

### 「観光立国推進基本計画」の 具体的な実現が任務

国土交通省総合政策局・総合観光政策審議官  
本保芳明（ほんぼ・よしあき）氏



### 観光振興の目玉としてなにを行いますか？

最大の使命の一つは観光立国推進基本法の実現です。就任する前の6月の閣議で決定されたこの計画には直接携わったわけではありませんが、数値目標が明記されており、分かりやすく良い計画だと評価しています。前の職場の日本郵政公社で民間的経営をしてきた経験から言わせてもらくと、この計画は紙の上のプランに過ぎません。目標をいかに実現してゆくかが課題です。スケジュールとしては計画期間は5年ですが、遅くとも3年目には打つ手はすべて打ったという状況にして最終年度で成果を取り入れていくという形にしたいと考えます。スピード、効率、成果を重視してゆくつもりです。実施計画は数字を実際に積み上げて、毎年度に目標を定めて、進捗状況を関係省庁を含めて検証できるようにしていきたいと考えてます。

**日本に外国人観光客を2010年には1000万人にするVJC（ビジット・ジャパン・キャンペーン）は成功していますが、その理由は何でしょうか。**

成功の理由はキャンペーン事業として、官民一体で取り組んできたことだと思います。具体的には韓国、台湾、中国など重点12市場でマーケティングを実施するとともに、事業評価を実施して効率的、効果的な事業の実施に努めてきたことが良かったと思います。今後は1000万人の目標に向けて訪日旅行者の満足度を高めリピーターを促進する取り組みが必要になります。このために08年度の予算の概算要求で体験型、滞在型、広域周遊型の新しい旅行形態を作るほか、洞爺湖サミット、北京オリンピックの機会を利用した発信力の拡大に努めます。ICカードの共通化や相互利用化で旅行者の利便を図って行きます。

**地域振興のために観光に力を入れてゆく必要があると思いますが、どのような施策を考えていますか？**

観光産業は旅行業や宿泊業のほか、運輸業や土産品など裾野の広い産業です。観光振興は地域振興を図る上で重要であると思っています。旅行者を増やすことも重要ですがそれ以上に宿泊旅行回数、滞在日数を増やすことが重要です。7泊8日以上滞

が可能な広域観光圏のための地域の関係者の提携やプログラムを提供できる新しい支援制度の創設や計画制度を含む法案提出の準備を進めています。広域観光圏のための地元関係者を構成員とする法定協議会の設置も考えています。

**観光庁の昇格の見通しと具体的な行動はどのようなことを考えていますか？**

観光庁の実現には3つの意義があります。一つは観光行政の対外的な「顔」の明確化です。二つ目は関係省庁の連携強化です。三つ目は地方への窓口の明確化と連携強化です。要求にあたりスクラップ財源の手当てなどを行いました。しかし、防衛施設庁や社会保険庁がなくなる中で新しい庁を作るのは行政改革的見地から逆行するという見方もあり厳しいです。実現に向けてがんばるのみです。

**来年度の予算要求の目玉は何ですか？**

経済成長戦略枠17億円を活用し、前年度47%増の58億円と積極的な概算要求をしました。観光立国推進基本計画に定められた数値目標の実現に集中しています。二つの柱があり、一つはビジット・ジャパン・アップグレード・プロジェクトです。重点12市場だけではなくインド、ロシア、マレーシアにも重点的に取り組みます。もう一つは4年経ったVJCを新しいフェーズに進化させるためにCS（お客様満足度）向上により訪日旅行者の満足度を高めて、リピーター化を促進します。合わせて国際会議の開催や誘致に対して踏み込んだ支援措置を要求しています。総花的・ばらまきのでなく重点化、集中化を図って成果を出していくつもりです。（阿部 和義）

**[本保氏のプロフィール]**

北海道出身。東京工業大学大学院社会工学科卒。1974年4月に運輸省入省。83年4月国際観光振興会（現国際観光振興機構・JNTO）ジュネーブ事務所出向。88年5月経済協力開発機構（OECD）政府代表部一等書記官。97年7月運輸政策局観光企画課長。06年4月日本郵政公社理事・専務執行役員。07年7月に現職。58歳。

### 前海保長官らが海の安全と未来を語る 12月に「海事立国フォーラムin東京」

日本海事センターは第2回「海事立国フォーラムin東京2007」を12月4日午後3時から千代田区平河町の海運ビル2階で開く。国土交通省、海上保安庁が後援する。今年7月には海洋基本法が施行されるなど海に対する関心と期待が高まっている中、海にかかわる著名な講師3人を迎えて海洋国家・日本の現状と将来を考える。講師は川勝・静岡文化芸術大学学長が「海の信頼醸成に向けて」、森本・日本船長協会会長が「船長雑感」、石川・前海上保安庁長官が「多様化する海上事案 海の安全への挑戦」について講演する。

午後5時30分から講師を囲んで懇親会を開く。参加者を募集している。

## 観・光・人・国・記

歴史都市・萩市を世界遺産に  
観光振興の切り札にと動く野村市長

野村 興兒（のむら・こうじ）氏  
1967年京大経卒、大蔵省（現財務省）に入り、主計局勤務。その間、ハーバード大ロースクール留学。福岡国税局長等を経て、1993年萩市長当選。2005年6町村合併に伴い、市長に。実質4期目。

1933年から全国伝統的建造物群保存地区協議会会長。

「萩市を世界遺産に登録してもらう運動を進めています」と、野村興兒・萩市長。その根拠は、毛利藩が400年前に徳川幕府によって中国地方の西北端に封じ込められ、阿武川の河口の三角州に城下町を建設した時点に遡る。暮盤目に作られた街並みは、今も、その筋（街路と建物）の7割が当時のままの道幅。加えて『松下村塾』をはじめとする明治維新の立役者たちの生家や獄舎跡などの痕跡があちこちに残る。「街自体が博物館。点と線で残る街はあるが、萩のように面で城下町が残っている街は、まずない」と野村市長。

そんな萩市だが、観光客を呼び寄せるうえでは、交通問題が大きな障害となっている。かつて新幹線が博多まで伸びた1975年に225万人に達した観光客が、最近では130～140万人と低迷している。なにしろ東京萩間をJRだけ使って訪れようとする10時間近く掛かってしまう。これでは、ちょっと行ってみよう、とは参るまい。徳川幕府が毛利藩をこの地に押し込めてしまった理由がよくわかる。インターネット全盛の中、つい最近まで「東京-萩」路線を検索すると、JR利用分しか出てこない状況があったそうだ。野村市長は、ここに目をつけ「JRとバスの併用、宇部空港からバス、隣県の石見空港からバスの経路を入れてもらう働きかけをしました。その結果、やっと今年夏には修正でき、関東の方にもお出で頂きやすくなりました」という。

観光振興策として、野村市長が考えているのが、滞在型観光客の誘致策。「古い街並みと伝統、人情が色濃く残る萩市は、いわば安らぎの場であり、癒しの里なのです。ゆっくり滞在していただくと、命の洗濯になりましょう」。そして滞在型を可能にするような宿泊施設の増強を考えているという。住民が出て行って空き家になった民家を買上げ、素泊まり5000円程度の民宿を増やす。同時に温泉を掘るお手伝いもしたい、としている。萩には温泉がないといわれていたが、『萩本陣』という旅館が自力で温泉を掘り当てた実績があり、温泉地に変身できる可能性を秘めている。

体験型観光の一つの目玉として挙げるのが、『萩往還』という古道跡。毛利家が萩に入ってすぐ、山口を經由し瀬戸内海に接する三田尻（今の防府）へ

向かう53キロの直線路を突貫工事で造った。今でも石置が残り、健脚家に向いているという。

観光客の復活、増加を目指す野村市長の切り札的な秘策は、萩市を世界遺産に登録してもらうこと。

「先に世界遺産となった石見銀山、世界的な鍾乳洞である秋芳洞、そして萩市を結ぶルートを売りにしたい。それに山陰線直通で松江市へ行けるようJRにも働きかけています」と夢を語る。

野村市長とともに、世界遺産実現を祈りたい。

陣頭指揮に立つ“総女将”松村さん  
山口県萩温泉 源泉の宿『萩本陣』

“総女将”という耳慣れない肩書を持つ松村美代子さん（写真）は、萩市東部にある小高い丘の中腹に位置する『萩本陣』の女主人である。

一般的には、旅館や料亭では大女将・女将と呼称するが、“総女将”とした理由を、「うちには核となる建設業、水産加工業など5つのグループ会社があり、すべて監督するという意味で、“総”をつけたのです」と、松村さんは説明する。



建設業『松村建設』の力が生きたのが、温泉の掘削。美代子さんのご主人・勇氏が「萩の観光振興には、温泉が必要だ」と言って35年前、カナダから石油掘削の専門チームを呼び寄せて、5本ボーリングした。最深の井戸で2350メートル。いまは毎分500、約32度の湯が噴出する。それをさらに沸かす仕組みだ。

館内には、昨年12月大浴場の「萩本陣・湯の丸」がオープン。これを中心に、あたたかも萩の街を巡り歩くかのような、土堀に囲まれた露天風呂、歩いて湯浴みできる歩の間、香草を使った香の間など、男女合わせて14種類の風呂がある。カルシウム・ナトリウムを含む塩化物温泉。2000年の古代層から汲み上げる水は、山口大学によると約2万年前のものと推定され、「熟成化石水」温泉とも呼んでいる。

かつて経営していた幼稚園、保育園には温泉プールも作り、名物となっていた。松村さんは、その園長も務め、教育者でもある。その所為もあって、修学旅行生が大挙して宿泊したこともあった。

この旅館の最大の売りは、自家源泉の温泉だが、料理の自信もある、とのこと。昨年からは始めた昼食の健康バイキングは、金土日の3日間だが、地元の婦人らにうけているという。「けんラン牛」といい萩沖の見島にいる天然記念物の「見島牛」と「オランダ産のホルスタイン」を交配した『見蘭牛』の特別料理も、ある。

萩の旅館協同組合の「女将の会」の会長も務める美代子さんは、勇氏とともに萩市観光振興に大活躍中である。（市長インタビューとも、加納が担当）

『萩本陣』 萩市大字椿東385-8（松陰神社の近く）  
電話：0838-22-5252、FAX：25-3594

## JN協会6年の歩み

2001年4月発足したJAPAN NOW観光情報協会は、7年目に入り順調に活動を展開しています。第3回北海道シンポジウム開催にあたり、これまでの歩みを紹介します。

### JN協会の活動目的

21世紀は世界的な観光交流が拡大し、「観光の世紀」と言われています。政府も官民一体で振興に取り組んでいます。JAPAN NOW観光情報協会は平成13年4月に「都市再生・観光振興・環境保全」を目的としたNPO法人として石原・東京都知事から認証され、活動しています。日本が観光立国として発展するためには、従来の観光振興だけでは限界があり都市の再生、活性化による地域経済の振興や環境保全が必要です。

当協会はこの理念のもと、市民レベルの「第三の社会セクター」(NPO)の立場から既存の「第一の社会セクター」(国、自治体など公的機関)や観光、鉄道、航空、電力、ゼネコンなどの「第二の社会セクター」(営利法人)が発信する都市再生・観光・環境保全情報の補完に取り組み「賢い旅行者・消費者」の育成に務め、国や地方自治体、経済団体への提言も行い、成果をあげています。

### JN支部の設立

- ・新宿支部(2001年4月、片山文彦・花園神社宮司が支部長)
- ・北陸支部(2002年10月、水野卓哉・北陸鉄道会長が支部長)
- ・立教支部(2003年12月、支部長は学生会員の持ち回り)
- ・九州支部(2004年3月、長尾亜夫・西日本鉄道社長が支部長)
- ・中部支部(2004年7月、須田寛・JR東海会長 = 当時 = が支部長)
- ・神戸支部(2005年3月、岩田弘三・神戸商工会議所副会頭が支部長)
- ・北海道支部(2005年11月、JR北海道会長の坂本眞一氏が支部長)
- ・四国支部(2006年4月、JR四国会長の梅原利之氏が支部長)
- ・東北支部(2007年4月、仙台商工会議所会頭の丸森仲伍氏が支部長)
- ・中国支部(2007年9月21日、広島電鉄社長の太田哲哉氏が支部長)



写真・発足メンバー

### JN協会の活動実績(講演会)

- 第1回:「国際観光を楽しむ」平成13年10月22日(月) 基調講演:向山秀昭氏(国際観光振興会長)
- 第2回:「都市の活性化と国際観光」平成14年1月31日(木) 講演者:カトリーヌ・オーデン氏(フランス政府観光局長ら)
- 第3回:「都市の交流と国際観光」平成14年5月21日(火) 講演者:羽生次郎氏(国土交通省国土交通審議官)
- 第4回:「北陸新幹線と地域振興」平成14年10月4日(金) 於:金沢市 講演者:松尾道彦氏(鉄道建設公団総裁、当協会副理事長)
- 第5回:「内外経済事情」平成14年11月21日(木) 講演者:渡辺 修氏(日本貿易振興会理事長)
- 第6回:「激動する航空業界の現状と今後」平成15年5月30日(木) 講演者:野村吉三郎氏(全日本空輸会長)
- 第7回:「江戸文化と大道芸」平成15年 8月10日(日) 於:新宿・花園神社 シンポジウムのパネリスト:片山同社宮司ら4名
- 第8回:「観光立国と箱根の魅力」平成15年9月4日(木) 基調講演者:中村徹氏(日本観光協会会長)。  
討論者:山口昇士(箱根町長)、金澤悟(国土交通省観光部長)、福川伸次(電通顧問)の各氏。
- 第9回:「九州新幹線の開業に向けて」平成16年3月1日(月) 於:ホテル日航福岡 講演者:高山博文氏ら
- 第10回:「日本経済の再生と観光立国」平成16年5月27日(木) 講演者:福川伸次氏(元通産事務次官)
- 第11回:「中部国際空港の開港と観光交流、および「愛」地球博の成功を目指して」  
平成16年7月15日(木) 於:名古屋市 講演者:平野幸久氏(中部国際空港会社社長)、中村利雄氏(万博事務総長)
- 第12回:「観光立国と国の安全」平成16年12月16日(木) 講演者:国松孝次氏(元警察庁長官、前スイス大使)
- 第13回:「21世紀は大名古屋圏の時代」平成17年1月25日(火) 於名古屋市・銀行協会ホール  
基調講演:福川伸次氏、パネラー:奥野信宏、安原敬裕、須田寛、水尾衣里の各氏
- 第14回:「神戸空港開港に当たって」平成17年3月17日(木) 講演者:茨木康男・大阪航空局長、山本朋廣・神戸市港総局参与、神田勉・同市企画調整局参与
- 第15回:「サッカーと観光立国」平成17年5月24日 講演者:鈴木昌・リーグチェアマン(JN通常会員総会のあと) 於ホテルKKR
- 第16回:「大九州圏観光フォーラム2005」平成17年9月21日(水)。福岡市の西鉄グランドホテルで。渡辺修・ジェトロ理事長ら5人講師
- 第17回:「21世紀は大北海道圏の時代」平成17年11月08日(火)。講師:電通顧問の福川伸次氏(元通産事務次官)、  
照明デザイナーの石井幹子氏、国土交通省総合観光政策審議官の柴田耕介氏ら4人。
- 第18回:「大四国圏の活性化と将来展望」平成18年4月14日(金)。講師:機械産業記念事業財団会長の福川伸次氏ら3人。
- 第19回:「地球規模の観光大交流時代ですよ」平成18年5月19日、第5回通常会員総会記念講演会。講師は岩村・前国土交通事務次官
- 第20回:「魅力溢れる大中部圏の現状と将来」平成18年7月14日(金)。講師は須田寛・JR東海相談役、金澤博・鉄道運輸機構理事(新幹線担当) 200人参加。翌15日は「かほく市」で、北陸支部主催の講演会(講師:松尾理事長ら4人)120人参加
- 第21回:「第2回・21世紀は大北海道圏の時代」平成18年11月9日。札幌市で。講師は、鈴木久泰・国土交通省航空局長、小川康則・総務省行政課理事官、大多和巖・農林中金総合研究所社長
- 第22回:「食育・動育・心育による町おこし」「港・横浜と観光」平成18年11月28日(火)。講師は、中尾・国交省港湾局長ら。
- 第23回:「新世紀・大東北圏の活力と魅力を探ろう」平成19年4月13日(金)。仙台市で、講師は須田寛・JR東海相談役ら3人。
- 第24回:「白山市シンポジウム」平成19年7月8日(日)。講師はJN協会・松尾理事長、白澤副理事長、加藤参与ら7人。
- 第25回:「大中国圏の活性化と将来展望」(平成19年9月21日。講師は、須田寛・JR東海相談役、大野裕夫・国交省海事局次長ら。
- 第26回:「第3回・21世紀は大北海道圏の時代」平成19年11月6日。講師は渡辺修・前JETRO理事長、中尾・国交省港湾局長ら。
- 第27回:「食・心・動の三育シンポ」平成19年11月23日。東京神田・「ベルサール神田」。主催は郷土発展振興会、JN協会。

# JN協会6年の歩み

## JN協会の活動実績（見学会）

- 第1回：山梨県都留市の山梨リニア実験センター 平成13年11月8日(木)。  
JRマグレブ・リニアカーの試乗会。丹羽理事長以下15名が参加、  
時速450キロを体験。
- 第2回：東京電力柏崎刈羽原発など。平成14年8月24日(土)、25日(日)  
参加者25名。協力：原子力発電技術機構
- 第3回：石川県・能登空港 平成15年7月8日(火)  
7月7日開港した能登空港見学。丹羽理事長、水野・北陸支部長ら10名  
が参加。
- 第4回：都留市リニア実験センター 平成15年10月8日(水)  
松尾副理事長や電力、ゼネコン、鉄道などの団体会員ら30名参加。  
時速500キロを体験。
- 第5回：横浜市みなとみらい線 平成16年1月21日(水)  
2月1日開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら30名が参加。
- 第6回：九州新幹線(鹿児島中央駅～新八代駅) 平成16年3月1日(月)  
3月13日の開業を前に、丹羽理事長、松尾副理事長ら20名が試  
乗会に参加。
- 第7回：開港前の中部国際空港 平成16年7月15日(木)。  
松尾理事長ら約20名が参加。
- 第8回：建設が進む神戸空港 平成17年3月17日、松尾理事長ら20名が参加。
- 第9回：開港前の神戸空港 平成17年3月17日 松尾理事長以下約20人。
- 第10回：開業前の「つくばエクスプレス」試乗会。平成17年7月27日、11名参加。
- 第11回：3回目のリニア試乗会。都留市リニア実験センター 平成18年10月27日。  
須田寛JR東海相談役が講師となり、松尾理事長らが参加。



時速500キロで走るリニアモーターカー(第一回試乗会) - 2001年11月



リニアモーターカー第一回試乗会前

## 台湾との積極的な交流促進に 北海道資本が、台湾・高雄の大型店に出店

2009年、北のゲートウェイ・新千歳空港に新国際線ターミナルビルが完成する。

これに向け、アジア圏を中心とした外国人観光客なかでも台湾からの旅行者拡大を目指し、北海道空港グループの一員である「株耕人舎」が台湾第二の都市・高雄市で100%出資の現地法人「北海道百貨股份有限公司」を設立、アジア最大のSC（ショッピングセンター）の一角に店を出した。

歴史的に親日感情が強い台湾との交流を深め、現在国際線旅客の約4割を占める台湾の北海道へのイメージアップと同時に文化や観光、特産物等の紹介を通して台湾の方々の北海道に対する認識度を更に高め、観光客を誘致する狙い。80坪（264㎡）のここ店（写真下）には、北海道の新鮮な海産物、農産物、有名菓子、乳製品やスイーツ、また馬油製品やラベンダーなどの北海道を代表する商品1000アイテムを揃えているほか、



飲食コーナーでは180席を設け人気の札幌ラーメンはじめ海鮮丼、寿司、天らなど、北海道からの調理アタッフの指導の下、本格的な味を提供し、好評を得ている。店内では、北海道のポスター、パンフレットのほか大型ビジョン3

面を揃えているほか、飲食コーナーでは180席を設け人気の札幌ラーメンはじめ海鮮丼、寿司、天らなど、北海道からの調理アタッフの指導の下、本格的な味を提供し、好評を得ている。店内では、北海道のポスター、パンフレットのほか大型ビジョン3面を揃えているほか、

している。この店が入っているショッピングセンターは「夢時代（ドリーム・モール）」と言い、台湾流通業最大手の統一企業グループが運営するアジア最大の大型店。売場面積は78100坪（約26万㎡）、核テナントを含むテナント数500店、扱うブランド数1000、3000台の車と2700台のバイクを止められる駐車場を有する。



台湾・高雄の大型SC「夢時代」

一方、数年前から要望していたが、台湾で取得した運転免許で日本でも運転ができるように日本の道路交通法が改正され、9月19日から実現したことが大きい。相互主義に従い、日本人も日本免許で台湾で運転できる。この結果、台湾からの観光旅行は団体ツアーが主だったが、今後はレンタカー付きのパック旅行とかグループ旅行、ファミリー旅行などに熱い期待が持てるようになった。

台湾においても日本からの旅行者は今までは台北市中心だったのが、新幹線の開通もあり、台北から高雄への周游客が増大。また北海道からは経済界、観光関係団体、流通関係者羅が高雄へ視察訪問が活発に行われるようになり、官民一体での交流がますます促進されると思われる。

面でビデオ映像を放映、北海道観光を広くアピール

JN協会参与 山内 徳治

## 「世界遺産」物語・・・

## 世界遺産への思い入れとアプローチ

近藤 節夫

出るぞ！ 出るぞ！ と思っていたらついに出た。

「世界遺産検定」と称して世界遺産に関する知識を広める目的で、実施されることになった世界遺産知識検定試験である。高邁な理想や、基礎知識の普遍化を図るといふ意図は理解出来るにしても、商業ベースに則っている感じがあってどうも素直に馴染めない。

2005年に設立されたNPO法人「世界遺産アカデミー」なる組織が、ユネスコ事務局長のメッセージを掲げ、著名な学者や元大臣のお墨付きを得て、関連のテキストを次々に発行し、セミナーや講座を開いて事業？を伸ばし、昨年初めて念願の「世界遺産検定」を実施した。

しかし、これは本筋からちょっとずれているのではないかと思うのは、筆者だけの思い過ごしであろうか。世界遺産は部屋の中で机に向かい、ひたすら知識を詰め込むような受験勉強の対象に当るようなものではないと思う。事前に学んで気持ちを高揚させ自分の足で現場を訪れ、本物に触れて、感激を味わってこそ、世界遺産の本質を知ることになる。それこそが臨床(場)学である旅のひとつ、世界遺産の極意ではないだろうか。

私見を述べれば、まず自分が見てみたい好きな世界遺産を心の内に決める。それをある程度学んだ後に、自分なりのこだわりを持って憧れの世界遺産を訪ねてみるとよい。臨場感の伴わない「世界遺産」なんて、所詮テレビで観る「夏の夜空の花火」にしか過ぎない。

## NEW SPOT

in japan

## メトロロマンス

小田急の特急ロマンスカーが2008年3月から東京メトロ千代田線に毎日乗り入れる。メトロに初の座席指定特急で、代々木上原から表参道、霞ヶ関、大手町、北千住に停車。ラッシュ時のビジネス客をねらい、平日朝に本厚木発1本。夕方は初めて成城学園前に停まる唐木田行き。夜は大手町発・本厚木行き2本。千代田線は追い越し車線が無く大幅な時間短縮は望めないが、ゆったり通勤が売りだ。特急料金はメトロ線内200円均一で小田急の料金と合算する。

土日祝日は1日6本で、昼間に北千住 - 箱根湯本の観光特急が上下2本ずつ走る。それに成城学園前停車が朝の本厚木発・北千住行き1本、逆が夜に1本。この1往復は花火大会やディズニーランドの観光ピーク時に年間30日ほど有楽町線に乗り入れる。本厚木 - 新木場間に朝の上りと夜の下りで、メトロ内は表参道、豊洲、新木場に停まる。

筆者は、まだ世界遺産制度が発足する以前から、作家小田実に影響され、アクロポリスの丘に恋焦がれ、初めて訪れた時には朝な夕なに界隈を歩き回り、アクロポリス夜景鑑賞に絶好の角部屋に泊まり、ホテルの窓から眺め続けていたものである。

いままた新しい目標がある。近いうちにチベットのポタラ宮殿を仰ぎ見てみたい。

## 3回目の旭山動物園

杉 行夫

「観光立国フォーラムin札幌」が開催されるごとに、旭山動物園に行く。今回は3回目。

11月3日は冬季開園の初日ということで、大勢の入園者がいた。メインの入口に近いアザラシやペンギン館は人が多く、特に餌をあげる“モグモグタイム”を控えたペンギン館には行列が出来ていた。やや空いているアザラシ館に入るが、2年前には頻繁に通って抜けていた縦の水槽に、5~10分くらい経たないと姿を現さない。アザラシもすれてしまったのか。白熊館を通り抜け、昨年楽しんだチンパンジー館に向った。その左にあるミズクとフクロウの写真を撮ったが、チンパンジー館では、昨年ほどカメラに近付かず、また照度が暗く被写体としては良くなかった。

そこで隣のオラウータン館に行った。すると7月に生まれた赤ん坊と、その前年に生まれた姉の親子が動きがあって面白く、しばし粘って撮影したのがこの写真である。



小菅園長も来年は定年とのこと、旭山動物園の盛況が続くことを願ってやまない。



東京メトロに乗り入れる新型の小田急ロマンスカー

千代田線霞ヶ関駅付近と有楽町線桜田門駅の間には車両保守用に敷かれた地下の連絡線があり、これまでもロマンスカー以外で両線を結ぶ臨時電車が走っている。

小田急はメトロ乗り入れのため地下を走行できる新型車両を開発した。緊急時に脱出できるように最前と最後尾の車両の前面にドアがあり、車体の外装はフェルメール・ブルー。17世紀オランダの画家が好んで使った鮮やかな青色という。メトロの風景がちょっぴり変わりそうだ。(写真・文 林 莊祐=会員)



「観光立国と私の提言」

外国人が満足度の高い旅行を！

JNTOのアンケートを活用して

JN会員 加藤 和子



国際観光振興機構（JNTO）の寺嶋潔顧問（写真）に話を聞いた。

JNTOは海外で外国人観光客の来日促進や観光に必要な様々な体制整備に努める独立行政法人だ。日本人にとっては、あまり存在を実感する機会のない組織ではあるが、政府の推

進する2010年までに外国人旅行者を100万人に増やすという「Visit Japan」キャンペーンで重要な役割を担っている。最近、都心で生活していると、外国人観光客が増えていることを肌で感じる。交通機関だけでなく百貨店や専門店でも外国語での表示が増えている。寺嶋氏は、海外のマスコミへの情報提供やジャーナリストの招待、イベントの開催などの効果が上がっていることを強調した。しかし一方で京都駅での個人的経験を挙げて、まだ外国人が不自由なく旅行できる環境整備が十分ではないとも指摘した。寺嶋氏が京都駅で旅行案内所を探したところ、最初に見つけたのはJR西日本の案内所。観光案内所は別の階で旅行者がすぐにたどり着けるころにはなかった。「京都のような観光都市ですら...」と思ったそうだ。ほかに寺嶋氏は、欧米の個人旅行者向けの安い宿が少ない、英語で対応でき

る従業員が足りないことなど中国で渡航制限が緩和され旅行者を大幅に増やせる絶好の機会であるのに、日本の観光業界がその機会を十分に活用し切れていないと感じている。

こうした問題の根源にあるのが、日本人の自国の魅力への無頓着さだと寺嶋氏は指摘する。そもそも魅力に気づいていないために、海外に対してアピールできない。いい例が、北海道のニセコだ。あのスキー場を国際色豊かなリゾートにしたのは、たまたま遊びに来たオーストラリア人の青年で、日本人は、北海道のスキー場に、外国人が大挙して押し寄せるなどと考えもしなかったのだ。もしかすると、そうした可能性に気づいていても、どう海外に働き掛けられるかがわからなかったのかもしれない。いずれにせよ、日本には、まだこうした「眠れる観光資源」がたくさんあるはずだという。寺嶋氏は、JNTOの役割はすでにあるものを海外に売り込むこと。新しいものを開発していくのは、観光地、地元役割。だがJNTOが実施している外国人旅行者のアンケートなどを活用すれば、外国人が何を求めているかがわかる。こうしたデータを利用して、外国人がより満足度の高い旅行ができるような観光資源の開発を進めて欲しいと語った。

外国人の訪日目的は「ショッピング」

国際観光振興機構（JNTO）が行った聞き取り調査によると、日本を訪れる外国人の目的は、34.8%がショッピング。伝統文化、温泉を抜き、初めてトップに。東南アジアはじめ近隣諸国からの訪問が目立つ。円安やこれらの国々の所得向上が、大きな要因とみられる。

C O L U M N

名前の呼び方

落語の前座咄の代表的なものとして 寿限無寿限無 がある。名前の長いことによって起るいらいらを笑いに包んでしまう古典落語のひとつである。では、実際日本人の姓で一番長いのは何だろう？ 聞いたところでは、「八月朔日千代」？さんという方だそうである。「ほづみちよ」と読む。外国人の場合、言語学的に複雑多岐に亘るからもっと大変だ。

シドニー・オリンピック水泳競技で、優勝候補だったイアン・ソープ選手を破って優勝したオランダのピーター・ファン・デン・ホーゲンバンド選手を呼称する時、姓のファン・デン・ホーゲンバンドと叫びながらも、ゴール間際のデッドヒートにアナウンサーの実況放送がついて行けず、ついに「オランダ！オランダ！」と絶叫していたのが妙に頭にこびりついている。

露出度が高ければ何とか覚えることが出来るが、馴染みにくい外国名の発音の場合は、地名、人名を問わず日本人にとって覚えるのは大変である。最近では著名人でもイランのアフマディネジャド大統領のような記憶しにくい名前も表われてきた。

英語以外の外国語の場合は一旦英語に訳されて、英語名で日本に伝えられるケースが多く、なおさら厄介である。いま日本では基本的に原語発音を重視するようになり、検定教科書もそれに倣っている。かつての「アレキサンダー大王」は、「アレクサンドロス大王」となり、「ベニス」は「ヴェネチア」となった。

ある時パリのオルセー美術館でドガの名画を鑑賞していて、傍らのアメリカ人グループが「ドガ」を「デガス」と発音しているのに耳をそばだてた。確かにドガは DEGAS であり、英語の発音上なるほどと思ったが、まるで別人の印象に当惑したことがある。

しかし、まあ一番の傑作は、何と言っても東京メトロ「国会議事堂前」駅のローマ字名をフランス人に発音してもらった時である。「コッケイジジードモー」と流暢に発音した。（近藤）

## お得な情報

### 「日本で見つけた 世界おいしい物語」

#### モロッコ料理 ル マグレブ

玉川通りの玉川高島屋の近くにあるモロッコ料理のレストラン『ル マグレブ』の外観は地中海の空の青と白い家を連想させる。テーブルクロスも白とブルー、ただ、ナブキンを鮮やかなオレンジにして温かみがある雰囲気になっている。

モロッコ、アルジェリア、チュニジア、モリタニア、リビアの5カ国をマグレブ諸国という。言葉の意味としては「陽の沈む国」。日本は「陽出る国」なので、面白いことである。

モロッコ料理で有名なものはクスクス。モロッコが発祥だそうで、粒状の小麦粉を蒸した小さなパスタのようなもの。モロッコ人の主食であるが、日本人にも食べやすいものである。

もう一つ、タジンという三角系の陶器の蓋がついた器に盛られる料理。これもチキンと野菜の煮込み料理であるが、陶器の蓋をして蒸すため、水は使わず肉汁と野菜汁だけの味付けである。モロッコ料理は別に香辛料がきついか辛いということはなく、マイルドな味で野菜沢山のヘルシーな料理である。

まず、試してみたいのは野菜のクスクス1,800円か、肉と野菜のクスクス2,100円、そして豪華なロワイヤルクスクスは2,800円。またタジンは、地鶏とジャガイモのタジン、レモン味が2,100円、または、牛ひき肉とトマトのタジン、もある。手ごろなハラリスープは小さく刻んだ肉と野菜をトマト味で煮込んだもので、700円。金曜日の夜はベリーダンスのショーもある。住所は、世田谷区玉川3 10 11。電話は03 3709-2664。営業時間は、平日が16時30分から23時30分。土曜と日曜は、昼から24時まで営業。月曜が定休。(大島慎子)

#### 日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

### JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPANNOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。4月に完成した2007年度版は、日本全国のホテル110館55,000室の客室に常備されています。日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者



やカメラマンたちによって生き生き伝えることが、「JAPANNOW」誌の編集方針です。2007年度版は、日本の伝統文化のスタンダードである茶の湯の大成者とその故郷である中世の国際交易都市に焦点を当てた「堺と利休」、および現代にまで生き続ける日本の自然観を紹介する「日本のナチュラルヒストリー」という2つの特集を中心に構成されています。また筑紫哲也氏への巻頭インタビュー「道草のすすめ」も収録しました。

1部2000円(送料別)で購入できます。お問い合わせは株式会社ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

#### 長崎の赤いカレー

長崎には、カステラ、からすみ、チャンポン、皿うどん、など有名で美味しい食べ物、土産品があるが、今回は地元の人に長く親しまれている「夕月のカレー」をご紹介します。長崎が地元の、たたら静子さんが教えてくれた。

一般的にカレーの色は、だれもが黄色という認識で一致すると思う。ところが、夕月のカレーは赤い。朱色を薄くしたような色、あるいは、オレンジという人もいたりする。

ちょっと目には、ドレッシングソースのようにも見えるカレーは、クリーミーでほんのり甘い。何度か口にはこんでいると、やっぱりカレーだ。微妙な辛さが口に広がる。しかもその辛さが、あくまでやさしい辛さなのだ。辛いのが苦手な人にはお薦めだが、辛党のカレーファンからは『根性が足りない』と言われるかもしれない。しかしこのカレーに慣れ親しんだ者には「疲れたら食べに来んね(おいで)」とささやいてくれるような、故郷の味である。

白いごはんのまわりを半分囲むように赤いルーが盛られ、きれいなお月様のように見える。これが、「夕月」のお店の名前になったのだろうか。ルー自体に具はなく、小さな肉が2、3個、気の毒そうにルーの中に浸っているだけ、いたってシンプルだ。もちろん、カツカレー、チキンカレーなど、普通のカレー屋さんと同じメニューを楽しめる。

40年ほど前、『夕月』は長崎の繁華街のおしゃれで人気の店だった。そのころ青春時代を過ごした50代60代の人たちのなかには、夕月の赤いカレーに郷愁を感じるという人は多い。長崎で育った漫画家の蛭子能収さんもお気に入りらしいという話を聞いた。

何度か店舗が変わり、なくなってしまったのではとファンを心配させたが、現在、長崎の観光通りアーケード街に元気に存在してくれているのが嬉しい。初めて食べた人にはきっと忘れられない味になるにちがいない。長崎に行けない人にはインターネットでカレーパックも販売している。是非召し上がって欲しい。電話：095-827-2808 ホームページは次の通り <http://www.yuuzuki.com>



(堤るり/たたら静子)

#### [会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)  
東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階  
JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)へご連絡ください。

#### 会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2008年新年号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2008年01月25日。締め切りは01月15日。

# NPOから提案します

## 人材育成と観光学博士

高崎経済大学観光政策学科教授 寺前秀一

観光立国推進基本法では人材の育成が特記され、観光関係の学部、学科の設置が増加していますが、それに対応した専門の教師は俄には増やせるものではなく人材を育成するための教師をまず育成する必要があります。立教大学は1998年から観光に関する単科大学院を設置し、生涯学習時代をむかえ中高年の大学院生も増加しているようですが、時間的余裕のないものには論文博士は便利な制度です。なお、博士学位は学校教育法に規定がありますが、具体的なことは何も規定されていません。

私事ながら小生も観光学博士を立教大学から授与されました。観博24号ですからまだ24人しかいないということになります。以下論文博士を取得するノウハウを記述してみたいと思います。まずテーマを選定し論文審査をお願いする主査を見つけなければなりません。次に論文の内容ですが、主査の負担



軽減のためにも学会等の審査付き論文を数多く発表しておくことが必要です。小生の博士論文のテーマは「政策展開における観光基本法の指針性及び観光関係法制度の規範性に関する研究」です。長年の問題意識であった主催旅行に関する包括代金制度の合法性を取り上げています。この問題意識の時点では法学論文を想定していました。しかしながら観光政策論の教師となり、観光学のジャンルとして書いてみたくなりました。同時に観光基本法に関する問題意識も大きくなりはじめ、両者

を合体したテーマに取り組むことになったわけです。

結果的に3年以上を要しました。同時に主査にも大変な仕事をお願いしたことになります。大学院生等も参加する発表会等を経て、大学院の教授への根回し(主査が行います)の後、金文字印刷して正式に大学に提出します。認められれば、帽子、ガウンを身にまとうことができます(下欄写真)。大学紛争の影響で卒業式がなかった小生には感慨深いものでした。博士論文は世間に発表する義務があり、本論文は「観光政策学」(左欄写真)と題してイプシロン出版企画(03-5368-2327)から刊行させていただきました。是非御一読ください。

なお、若手の研究者育成には、現在の観光学関係の学会は分散気味でレベルの向上には支障があるような気がいたします。審査をするという労力のいる作業を行う人材を確保するためにもしっかりした組織と大きな母集団が必要な気がします。

## 寺前氏が日本で24人目の観光学博士に

JN協会理事、「観光立国セミナー」座長

寺前秀一氏が、立教大学から『観光学博士』の称号を受けた。日本では24人目。

同氏は、石川県出身で東大を卒業し運輸省(現国土交通省)に入り、気象庁次長を経て日本観光協会理事長。その後、高崎経済大学観光政策学科教授に招かれた。

JN協会には、設立当初から参画、北陸支部の設立に尽力された。



## イタリア通信 その1 ~ミラノ万博に向けて~

### 2015年の万博誘致に奮闘するミラノの女性市長

ミラノは2015年の万博開催地に立候補し、現在、誘致にむけ全力投球の最中である。

10月22日から2日間、パリに本部を持つBIE博覧会国際事務局の審査員がミラノを訪れ、その後、ローマでイタリア大統領や首相と会談した。

そもそも、このエキスポへの立候補、ミラノのモラッティ女性市長の発案でその強い意志と行動力で県、州や国、産業界を巻き込み、政治色の違いを超えた「各界の全面協力」の約束をとりつけた。

2005年のトリノオリンピックの成功、観光客数が毎年増加し文化観光都市の地位を固める首都ローマに比較すると、今一つさえないのが近年のミラノ。90年代初頭の連続汚職事件の影響で大規模な公共行事がなかなか進まない状況から脱皮するには、EXPO開催を契機に、都市再開発プロジェクトを実現し、「国際会議観光都市」としても強くアピールしていこうというのが同市長のねらいだ。

BIE視察の際は1週間前から市内を清掃車が終日走り回り、壁の落書きを消し、古い広告ポスターをはがし、道路の穴を埋め、ミラノのお化粧直しを完了させた。当日はミラノ中にイタリア国旗とエキスポの旗をかかげて一行をお出迎え。「なぜミラノでエキスポ?」と言っていたミラナーゼたちも大変身ぶりに驚き、エキスポへの関心も一気に高まった。

その後、市長は世界各国の「票集め」に旅立った。ライバルのトルコのスミルネ市は、1906年に万博を経験しているミラノと比べ万博は初めて。東と西の接点の地での開催に好意的な国も少なくない。2008年3月の



開催地正式決定まで、油断は禁物のようだ。

私は、ミラノを仕事場にイタリア旅行情報サイト(www.japanitalytravel.com)を運営するほか、日伊間のビジネスや観光PRのコンサルタントやコーディネートをやっている。この欄ではイタリア各地の観光や地域の話を紹介していきたい。

JAPANITALY.COM社 代表取締役 大島悦子

## 冬の訪れが遅くなっている

昨シーズンは観測史上例をみない大暖冬になりましたが、昨年に限らず、近年は暖冬があたりまえのようになってきています。そして、秋から冬へ向かう季節の歩みにも大きな変化がみられます。寒さの訪れの目安となる初霜や初氷などが年々遅くなっているのです。

グラフは、札幌から福岡までの5都市について、初霜の時期がこの半世紀で、どう変化したかを表したものです。上から「50年前の平年日」（1931-60年の平均）、「30年前の平年日」（51-80年の平均）、「平成時代の平均」（89-2006年）です。

東京と福岡は初霜の時期が半世紀前より一ヶ月以上遅くなっており、その他の都市も半月～25日遅くなっています。平成になってからの札幌の初霜の平均日は10月28日で、50年前の仙台（10月30日）とほぼ同じ、同様に、仙台の平均日（11月12日）は50年前の大阪（11月13日）とほぼ同じです。

このような変化の原因は、地球温暖化と、都市化によるヒートアイランド現象の2つが重なっていると考えられます。（都市化の影響が小さい所でも初霜・初氷は遅くなっていますが、その遅れ方は大都市ほど顕著ではありません。）

寒さの訪れが遅いことは、ふだんの生活では省エネなど、助かる面もありますが、“冬が短く”なることは動植物にも大きな影響を及ぼします。果樹などの生育に、予想できないような悪影響が出ることも懸念されています。厳しい寒さは困りますが、やはり、その季節ごとに“らしい”天候になるのがいいのではないのでしょうか。

日本気象協会 林 英美



### 会員名簿

個人名簿は公表していません

- 名誉顧問** : 松山善三(映画監督)  
**理事長** : 松尾道彦(日本海事センター会長、前日本鉄道建設公団総裁)  
**顧問** : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)  
**副理事長** : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株JALUX特別顧問)、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)  
**支部長** : 片山文彦(新宿)、水野卓哉(北陸)、田久保万里夫(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

### 【団体会員】(2007年11月27日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、射水市(富山県)、(株)井六園ワールド、岩田建設(株)、(株)エスシー・マシーナリ、(株)HKIAアクシス、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ペパレジ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成コーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、ティースートレーディング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、ネスレ日本(株)箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロックジャパン、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマリックス、マイナミホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)りんかい日産建設(株)

### 特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます!

## JAPAN NOW

観光情報協会

東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人: 白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長: 加納 隆(JN協会理事)

発行部数: 3000部 主な配布先: 会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

### 編集後記

北海道の洞爺湖で来年7月7日から3日間、先進国8カ国首脳によるサミットが開かれるが、テーマは深刻化している地球温暖化の世界的な対策をどう進めるか、である。地球温暖化は産業革命とともに世界的な都市化、工業化が進み自動車など交通機関の発達による経済活動の拡大や石油、石炭など化石燃料の使用量の増加など複合的な要因によってもたらされた。最近では人口100万都市が常態につながった巨大都市圏が世界各地に出現する「地球のエキュメノポリス時代」となり、この都市群から排出される二酸化炭素と人工熱汚染(ヒートアイランド現象)が温暖化をもたらししている。地球温暖化は農業生産にも大きな影響を与えるが、各国の温暖化対策は二酸化炭素の抑制だけに限定されており、総合的な対策が乏しい。洞爺湖サミットではレベルの高い日本の環境技術の普及とともに都市化など複合的な要因への対応が必要ではないか。(白澤)